

科目名

後期教養演習(人文知の饗宴)

科目の概要

本演習は 3.4 年生のみが履修可能となっており、この演習はこれから卒業論文作成や卒業研究を行う学生の皆様を対象としております。文学部の各分野の先生方からそれぞれご専門の研究分野について講義をしていただき、どのようにして研究対象と出会ったのか、研究にどのような意識を持って取り組んでいるのか、自身の研究分野の何が面白いのか、学生の頃はどのような時間を過ごしていたのか等のお話を伺います。総じて、人文知のあり方や研究の目的を考えていただき、皆様のこれからの研究へのモチベーションを高めてもらうことを企図しています。

授業内容の事例

文学部の各専攻の先生が何を専門として、どのように研究に取り組まれているのかについて、お話をしてもらい、その後、学生の皆様から自由に質問をしてもらいます。

学生へのメッセージ

文学部の先生たちがどれほどおもしろい人たちなのか、ぜひ知ってもらいたいです！



科目名

後期教養演習(国際関係)

科目の概要

模擬国連を行います。模擬国連とは、参加者が個人またはグループで担当する国家の代表となったつもりで、扱うテーマに関して各国がとるであろう立場を調べて主張し、全体で議論を行い、決議作成のための妥協点を模索するものです。それぞれの国家の歴史や立場によって、種々の問題に対して国際社会には多様な考え方があることを理解し、現在の国際社会とその中で生きていく人々の共生について考えるための授業です。

授業内容の事例

これまでは、地球環境問題、人権、国際紛争などをテーマに、6 カ国から 10 カ国での模擬国連を行ってきました。今後、参加者の希望によって、他のテーマも取り上げることがあります。

学生へのメッセージ

多くの人の参加があると、多くの国が設定できるので面白味が増します。国際関係がちょっと気になる人、聞く力と話す力を鍛えたい人、その他関心がある人、この機に気軽に一緒にやってみませんか。

文学部

総合教育科目

科目名

後期教養演習(心理学)

科目の概要

心理学の中で各自が関心あるテーマを設定し、自ら論文を読んでその内容を発表し、皆でディスカッションすることにより、心理学の学びを深めることを目的としています。

授業内容の事例

以前に参加した学生さんでは、スポーツ競技における心理的競技能力と性格の関係、偉人の伝記から読み解く自己愛性パーソナリティ、などのテーマがありました。

学生へのメッセージ

1, 2 年次に総合教育科目や心理学専攻のゴシック科目で、心理学関連の科目を履修していることが学びの前提となります。心理学は客観性を重んじ「方法・手続き」に拘る学問です。ある結論が、どのような手続きを経て導かれており、その結論がどの程度確からしいのか、ということに、関心をもつことが大切です。

文学部

総合教育科目

科目名

後期教養演習(舞台芸術)

科目の概要

日本の国内外で評価された舞台作品を例としながら、舞台芸術を総合的に分析する理論と方法を学修します。それぞれの舞台作品について、作品のテーマ、演出意図、評価基準、文化交流のシステム、分析のための理論などについて焦点を当てながら、その特徴について解説します。

授業内容の事例

- 戯曲分析と舞台上演分析の理論と方法
- 舞台上演の構成要素とその関連性
- 日本の舞台芸術と外国の舞台芸術の比較分析
- 日本の舞台芸術の歴史と交流史

学生へのメッセージ

様々なジャンルの舞台芸術作品に触れ、鑑賞したり分析したりする際の感性と視点を豊かにしてください。また舞台芸術の歴史や作品を分析するための理論、視点、方法論の基礎知識を修得してください。こうした基礎知識があると舞台芸術の見方が多様になります。



科目名

後期教養演習(スポーツライティング)

科目の概要

主にスポーツを見る人に向けて書かれたものをスポーツライティングと言いますが、日本で流行し始めるのは、1980 年頃からです。対象となるスポーツは幅広く、ライティングの形式もノンフィクション、エッセイ、小説など様々です。内容は、そのスポーツの魅力、ある場面の駆け引き、選手の生き様など、バラエティに富んでいます。この授業は、このようなスポーツライティングを文学研究の手法で分析しようとするものです。

授業内容の事例

山際淳司『スローカーブを、もう一球』など、作品を取り上げ、注釈し、主題を探ります。スポーツが歌われている歌謡曲なども対象になります。

学生へのメッセージ

スポーツの奥深さを知り、スポーツを見る見方が変わるかも知れません。



科目名

後期教養演習(ミュージアムと社会(1))

科目の概要

ミュージアムには、いわゆる美術館、博物館だけでなく、動物園や植物園、水族館も含まれます。現代のミュージアムには、政治、思想、歴史、教育、ジェンダー、お金、マイノリティの包摂、多文化共生、脱植民地主義など、さまざまな問題が関わっています。履修者が自身の関心に仕掛けてテーマを選び、グループまたは個人で調査を進め(ミュージアムの見学や教育プログラムの体験を含みます)、結果を報告してもらいます。

授業内容の事例

以下は、報告の一例です。

- ・展示やコレクションにおけるジェンダー
- ・ミュージアムが所蔵する遺骨の返還の課題
- ・ミュージアムにおける教育活動
- ・動物園と動物福祉

学生へのメッセージ

ミュージアムに関する課題について、自分で調べてみたい人、他の人と話してみたい人をお待ちしています。



科目名

後期教養演習(ミュージアムと社会(2))

科目の概要

フィールドワーク(展示見学)に基づいて、展示やミュージアムを分析します。共通の文献を読んだうえで、グループごとに(もしくは各自で)テーマを設定し、そのテーマに基づいてミュージアムや展覧会、教育プログラムを選び、実際に見学のうえ展示やミュージアムを分析して報告します。最終的に、レポートとしてまとめています。

授業内容の事例

対象とするミュージアムの選択は、履修者に任せられています。個々の資料についてではなく、展示の空間やコレクション全体について批評的に考えられるのであれば、動物園でも、水族館でも、博物館でもかまいません。

学生へのメッセージ

ミュージアムに関連する文献を読みたい人、展示やコレクション、ミュージアムの活動について批評的に考えてみたい人をお待ちしています。

文学部

総合教育科目

科目名

後期教養演習(人間礼賛)

科目の概要

毎回異なるゲストの教員が、13 専攻と 1 プログラムの枠や専門を越えて、いろいろな角度から様々な話題について語ります。ゲストとコーディネーター・司会が、人文学と芸術・文化・スポーツなど、ありとあらゆるテーマを、時代や地域も越えて、縦横無尽に議論します。文学部で教えたり学んだりする者にとって、この世界には無駄なものは何一つなく、重要なことは、心を開いて、問いかけ、対話を楽しみ、ともに考えることなのです。

授業内容の事例

- ・一見「文化」とは無縁の環境に育ったようなゲストが、上京して出会った「文化」、留学して出会った「文化」について語って、司会と対話するのを聞いた後で、文化とは何かという問題について、学生たちが考察した。
- ・誰もが無縁ではいられない介護、とりわけ認知症の人の介護について、専門家としてのお話と、当事者と家族と現場の悩みを聞くことによって、学生たちが自分の経験や考えを共有し、考察した。

学生へのメッセージ

カジュアルな雰囲気の中で、質疑応答のコツがつかめます。研究者であるゲストも、悩みや迷いを持つ人間であることを知り、文学部の学びの意味を実感できます。ゲストの著作についてわかりやすい紹介を聞くことができます。



科目名

後期教養演習(グローバル社会とスポーツ)

科目の概要

この授業は、異なる専門分野をもつ複数の教員によるオムニバス型科目です。ますますグローバル化が進む日本国内外の社会における「スポーツ」関連の多様なテーマを取り上げ、複数の教員による話題提供(レクチャー)とグループワークを交互に取り入れながら、共に考え、共に語り、共に学んでいきます。

授業内容の事例

「スポーツツーリズム」「IOC の難民選手団」「スポーツを通じた国際協力」「アメリカの社会とスポーツ(映画編)」など。

学生へのメッセージ

「スポーツ」に関する広い視野と柔軟な考え方を身に着けたいという高い意欲と熱意を持つ学生の履修を待っています！

文学部

総合教育科目

科目名

後期教養演習(アジアの社会と文化)

科目の概要

この授業では、部分的に COIL (Collaborative Online International Learning) 型活動を取り入れています。東アジア 3 か国の大学(日本、台湾、韓国)が連携し、国際オンライン協働学習を行います。授業での使用言語は「日本語」で、韓国と台湾の参加者は、大学で日本語を学んでいる学生です。

授業内容の事例

「アジアの社会・文化」について、①事前の準備活動、②多国間交流型活動、③事後のふり返りを重ねていきます。3か国の学生がグループに分かれ、協力しながら「プロジェクトワーク」に取り組みます。これまで「世界に紹介したい日本の文化」に関するウェブコンテンツを企画、制作したりしました。

学生へのメッセージ

複眼的視座から「アジアの社会と文化」を捉え、関連する知識や経験を得たいと思っている学生や、多国間交流型授業における対話的で主体的な学びを通じて自己と他者に対する理解と意識を向上させたいと思っている学生の履修を待っています！



科目名

後期教養演習(ダイバーシティと多文化共生)

文学部

総合教育科目

科目の概要

受講生がそれぞれに自分が関心をもつダイバーシティや多文化共生に関する問題を取り上げて調べ、発表し、全員で議論します。各人が1.2年の授業や自分自身で学んだことをベースに、専門の異なる仲間と刺激し合いながら、さらに発展させていくことが期待されます。

授業内容の事例

ジェンダーや家族、障害をもつ人たちの権利、高齢者、外国人やエスニックな少数者、難民などがテーマとしてあげられます。

学生へのメッセージ

多様な専攻・プログラムの人たちとの学びの場で意見を交換してみましょう。自分が気が付かなかった視点に出会えるかもしれません。